

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。“受験の夏”も終盤に差し掛かってきましたね。日々の勉強もさることながら、この時期は模試などでしっかりと夏の成果を出していきたいですね。努力に見合った結果が出ているのを点検するのは大切なことで、もし結果が得られていないようであるのなら、今一度自分の勉強法を見直して、秋・冬に備えてほしいと思います。我武者羅に勉強をするのもいいですが、常に自分を見直す姿勢は身に付けて欲しいと思います。

さて、第 15 回となる今回は 2012 年の東大日本史の第 2 問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、1 週間、しっかり考えてみてください。

【2012 年度 東京大学 文科前期 第 2 問】

院政期から鎌倉時代にかけての仏教の動向にかかわる次の(1)～(5)の文章を読んで、下記の設問 A・B に答えなさい。

- (1) 院政期の天皇家は精力的に造寺・造仏を行った。白河天皇による法勝寺をはじめとして、大規模な寺院が次々と建立された。
- (2) 平氏の焼き討ちにより奈良の寺々は大きな打撃をこうむった。勸進上人重源は各地をまわって信仰を勧め、寄付や支援を募り、東大寺の再興を成し遂げた。
- (3) 鎌倉幕府の御家人熊谷直実は、法然が「罪の軽重は関係ない。念仏さえ唱えれば往生できるのだ」と説くのを聞き、「手足を切り、命をも捨てなければ救われれないと思っておりましたのに、念仏を唱えるだけで往生できるとはありがたい」と感激して帰依した。
- (4) 1205 年、興福寺は法然の教えを禁じるように求める上奏文を朝廷に提出した。このような攻撃の影響で、1207 年に法然は土佐国に流され、弟子の親鸞も越後国に流された。
- (5) 1262 年、奈良西大寺の叡尊は、北条氏の招きによって鎌倉に下向し、多くの人々に授戒した。彼はまた、京都南郊の宇治橋の修造を発願し、1286 年に完成させた。

設 問

- A (1)と(2)では、寺院の造営の方法に、理念のうえで大きな相違がある。それはどのようなものか。2行以内で述べなさい。
- B 鎌倉時代におこった法然や親鸞の教えは、どのような特徴をもっていたか、また、それに対応して旧仏教側はどのような活動を展開したか。4行以内で述べなさい。